南十字星

2020年度 第12号
令和２年10月３日
クイーンズランド補習授業校
ブリスベン校
校長　直塚　裕典
E-mail ： hoshuko@jc-b.com

第３学期が始まります。新たな気持ちでスタートしましょう！

短い春休みが終わり、第３学期が始まりました。大きな事件や事故に巻き込まれたという報告がなく、子ども達が安全に春休みを過ごし、自分の命をしっかりと守ってくれたことが一番嬉しいです。また、ご家族の方から見られて、お子さんが春休みに何か継続して頑張ったことがあればほめてあげてください。ちなみに校長先生は、毎日散歩を１時間して足腰を鍛え、健康づくりに頑張りました。

これは４月頃の桜の写真です。新学期の頃を思い出すと、オンライン等によるサポートでしたが、いろいろなことに挑戦しようという「やる気」がいっぱいだったと思いますが、そんな気持ちが少しずつしぼんでいませんか。「どうせ無理だ」「自分なんかにできるわけない」などと考えて、何かに取り組む前からもうあきらめてしまうようなことはありませんでしたか。昔、武者小路実篤という人がいました。たくさん詩や小説を書きました。その作品の中に「生長」という詩があります。読んでみます。「木の上の方にある一つの枝のことが気になって仕方がなかったのです。しかし、それはとても高い所にある枝です。「どうせ自分には届きはしない」と早々とあきらめてしまっていたのでしょう。でも、やってみるものです。もう一度ジャンプしてみたのです。そうしたら、今度は楽に手が届いたのです。最初からあきらめていたら、せっかく届く距離になっていたことさえ分からないままになってしまっていたことでしょう。みなさんは 毎日成長しています。今までできなかったことができるようになっているかもしれません。みなさんの３学期の活躍を心から期待しています。まずは、目標を立てましょう。校舎内では、消毒やソーシャルディスタンスの励行等を繰り返し指導しながら、学習内容の遅れがないように努めていきます。これから暑くなるので体調管理にも気をつけなければなりません。

日本では、少しずつ涼しくなってきましたが、まだまだ台風の季節でもあります。今後とも補習校の子ども達のためにご協力とご理解のほどよろしくお願いいたします。

「ステーキがジュウジュウと音を立てていたら、それだけでおいしそう」

杉村　啓氏は、しょうゆや日本酒に造詣の深いライターです。人は料理や酒を純粋に舌だけで味わっているわけではありません。見た目や香り、食感も重要で、ステーキの焼ける音のように、聴覚さえ影響を与えます。さらに、杉村氏はおにぎりも箸を使うより手で食べた方がおいしく感じるという。人間は五感のすべてを使って「味」を判断しています。しかしこれは味覚に限った話ではありません。例えば、人間の好感度についても同じことがいえるでしょう。私たちが誰かを「いい人」と感じるとき、判断基準になっているのは人柄だけではありません。人間の印象は、服装や身ごなしや声など、様々な要因の組み合わせによって決まってきます。多少の欠点はあっても、どこかに「ジュウジュウいっている部分」があると、好感度がぐっと上がります。人は誰しも自分の好感度を高めたいと思います。しかし、他人の魅力に敏感になることも大切です。人には個性があるから、ジュウジュウの人だけではなく、ホクホクの人もアツアツの人もプリプリの人もいます。そうした味の違いを楽しむグルメになることも人生を豊かにするのではないでしょうか。

前向きな性格で早期復帰！　～リスタート　池江　璃花子さん～

昨年１２月に退院した際、池江璃花子さんは体の衰えが顕著だった。発病前は日本記録を連発するトップスイマーだっただけに気落ちしてもおかしくないが「普通に生活していることが幸せ」と、持ち前の前向きな姿勢を失わずに早期復帰への道を歩んだ。

今年１月、かつて通った東京都江戸川区のスイミングスクールの交流会に出席し「立ってるのがきつい」といすに座って旧知の人々が泳ぐ様子を見守った。その後の食事会で「胃が小さくなっちゃった」と、何種類もあった好物をなかなか口に運べなかった。

退院直後は体重が１０キロ以上落ち、たくましかった肩周りは明らかに細くなっていた。それでも小学校時代に師事した清水桂コーチに「はけなかったジーパンがはけるようになった」とあっけらかんと話すなどポジティブさは変わらなかった。別の知人との会食には自ら車を運転して参加。入院中とは違う「普通」の生活ができる喜びをかみしめた。

その中で、まず取り組んだのが筋力トレーニングだった。退院当初は懸垂ができず、腕立て伏せも膝をついて数回できる程度。プールでの練習を再開した３月ごろには懸垂を４回、腕立て伏せを１０回こなせるように。佐々木トレーナーは「水の中でしっかり泳げるようになって、めきめきと良くなった」と証言する。

悲観的にならずに地道に積み重ねた努力が想像以上に早いカムバックにつながった。（佐賀新聞朝刊より）

今後の学校行事等について（お知らせします）

保護者の方から、学校行事についての問い合わせがあっています。要望としては、出来る限り実施してほしいという意見があります。学校長としてもコロナウイルスの影響がなければ同じ思いであることをお伝えしております。年度当初から、縮小してでも学校行事を開催する方向で進めていました。補習校にとっての学校行事は、日本の学校文化が体験できる貴重な機会であり、大切な位置づけであることは理解しております。当然、子ども達も保護者の皆様も楽しみにしてあると思います。また、子ども達に貴重な経験をさせられるよい機会でもあります。

補習校の教職員や運営委員会の運営委員の皆様も運動会や補習校祭りなどの学校行事を開催したい思いは同じであることを理解していただきたいと思います。しかしながら、コロナウイルスの影響で人数制限やソーシャルディスタンスなどの規制が実施され、世界中のすべての補習校が運動会などの学校行事が中止になっているのが現状です。今後、コロナウイルスに関する規制次第ではありますが、１２月までには補習校まつりを含む学校行事等の開催の有無についてお伝えしますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

校長の赴任予定について（お知らせ）

私の赴任に関しましては、ブリスベン総領事館の皆様をはじめ、安藤日本人会会長様等のご尽力のおかげで無事に豪州の入国許可が出て、ビザが発給されました。派遣に大きく前進しているところで、現在は代理店を通しフライトの確保を行っている段階です。今後、文科省からの最終派遣決定日のご連絡を待つのみとなりました。豪州での２週間の隔離を経て、早ければ１１月上旬には待ちに待った補習校へ勤務できそうです。子ども達や保護者の皆様にお会いできるのを楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。

南十字星

2020 年度 第 13 号
令和２年 10 月 31 日
クイーンズランド補習授業校
ブリスベン校
校長　直塚　裕典
E-mail ： hoshuko@jc-b.com

第３学期が始まり、まもなく一か月が過ぎます！

早いもので、10月３日に第３学期が始まり今日で５日目となります。保護者の皆様から見られて、お子さんは毎週の勉強はどうでしょうか。また、お友達はたくさんできたでしょうか。保護者の皆様が一番気になるところだと思います。各担任の先生は、子ども達に寄り添いながら様子を見ていただいていますので、何かありましたらご相談ください。

私は今、シドニーのホテルで隔離中ですが11月14日に子ども達と会うことができるのでとても楽しみにしています。子ども達にお話をしたいことや聞きたいことがたくさんありますが、これから少しずつ全校朝会等で子ども達とコミュニケーションを図っていきたいと考えています。

さて、ブリスベンは春を迎えてジャカランダが満開で、一番きれいな時期だとお聞きしております。ホテルから見える景色は大きなビルしか見えませんので、ブリスベンの街を早く見たい気持ちです。日本では、私が出発するころは彼岸花が道路わきに咲いていて、とてもきれいでした。子ども達には、夢が膨らむようなことやいつまでも心の豊かさが大切なことを伝えたいと思っています。これからよろしくお願いします。

ある映画監督の言葉：「失敗することは才能なのだ」

フランスの映画監督のトリュフォーは、「大人は判ってくれない」「終電車」などの作品で知られています。まだ、監督になる以前に書いた映画批評の中に、失敗とは「何かを犠牲にしたことによる必然的な結果」なのだと説明しています。例えば、サスペンス映画の巨匠ヒッチコックは、観客をハラハラさせるシチュエーションを生かすためなら、物語のつじつまなど犠牲にしてしまうそうです。一般的なイメージとは逆に、失敗する人間は「自分はこれがしたい」というものをはっきり持っているということです。何もこれは映画の世界だけに限った話ではないのかもしれません。どんな分野においても、仕事の結果が「すべての面においてそこそこのレベルだが、全体的には物足りない」という場合、それは失敗とは言えません。

ただ、「イマイチ」と評価されるでしょう。攻めの姿勢と、攻めるための計画と準備と、周囲の人間を説得できるだけの人望なくして、失敗することはできない。トリュフォーのいうとおり、失敗は才能だと思います。たとえ失敗しても、過剰に気に病むことはありません。それよりも自分の才能を生かす次のチャンスに備えることが大切ではないでしょうか。

校長の赴任予定について（お知らせ）

現在、オーストラリアのシドニーのホテルにて、2 週間の隔離生活を送っております。11 月 3 日までが隔離期間で 11 月 4 日午後にブリスベン空港に到着する予定ですので、やっとクイーンズランド州へ辿り着けそうです。子ども達は、たぶん私と会って「老けたじいちゃんだなあ」「もっとかっこいいと思っていた」などと感じることでしょうが、、。いよいよ 11 月 14 日には待ちに待った子ども達と初めて出会うことができるので、今からワクワクしています。11 月 14 日の全校朝会では、子ども達に「今の思い」を限られた時間でお話しできればと考えています。11 月は、14 日、28 日の隔週で勤務します。

昔と今は、何が違ってきているのでしょうか？

私が小さい頃は「人様に迷惑をかけるな」とよく叱られていたのを思い出します。しかし、今は人と人とが関わる機会や集団での活動が段々と少なくなり、「人様」という言葉はほとんど聞かなくなりました。昨年ラジオのＣＭで２回目の東京オリンピックの成功を願って、次のようなフレーズが時々流れていました。（１９６１年と２０２０年の人々の暮らしを比べて）

☆ 物は少なかったけれど、笑顔に溢れていた。

☆ 世界とはつながっていなかったけれど、近所とはつながっていた。

物に溢れ、いろいろな事が楽にできるような便利な時代になりました。情報機器の発達で簡単に世界中の人とネット上で会話をすることができるようになりました。それはとても良いことですが、反面直接顔を見て話しをすることや集団で力を合わせて行動することが少なくなったため、相手の気持ちを想像したり、思いやったりする力が乏しくなってきたと言われています。

さて、補習校では挨拶や返事ができているでしょうか。私は、子ども達の笑い声を聞くのが大好きです。そこには、笑顔があり幸せがあるからです。ただ、補習校で挨拶や返事をすることはもちろん重要なのですが、それが目標ではありません。「補習校以上に家庭やコミュニティで元気に挨拶や返事ができる子ども」「感謝の気持ちを保護者の方々に言動で示すことのできる子ども」に育ってくれることを目標にしています。

毎月、子ども達へ「生活アンケート」を実施します！

本来であれば、５月から子ども達と一緒に補習校生活ができていて、子ども達といろいろなお話ができ、子ども達の困り感なども把握できていたと思います。そこで、生活アンケートを実施することで、少しでも子ども達の困り感をなくし、どのような気持ちで補習校生活を過ごしているのかを知ることができます。そして、今後の補習校づくりに役立てることや子ども達のよいところを全校朝会で紹介することを目的にしたいと考えています。「生活アンケート」は、毎月１回実施して、担任の先生と私が見て、アドバイスができればと考えています。

【アンケート一部抜粋】

このアンケートは、みなさんが補習校生活を気持ちよく、楽しく過ごすことができているかを確認するためにおこないます。この一か月の生活を振り返って、今の正直な気持ちを聞かせてください。

次のあてはまるものに〇をつけてください。

① 今、あなたは補習校で楽しく生活できていますか。

ア 「はい」 イ どちらかというと「はい」 ウ どちらかというと「いいえ」 エ 「いいえ」

② 補習校の授業についていけないことがありますか。

ア よくある イ 時々ある ウ あまりない エ ない

③ あなたのまわりで、良いことをしている人はいませんか。いれば、誰がどんなことをしていたか教えてください。（例 〇〇さんが窓を開けている。大きな声で挨拶をしている。ゴミを拾っている。 等）

【保護者の皆様へのお知らせ】

新しい当番携帯番号をお知らせします。0422-689-657 で、今週から使用可能です。古い番号は 11 月３日以降は使えなくなりますのでよろしくお願いします。